

（午後3時20分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番5、5番 坂口君。

〔5番（坂口親宏君）登壇〕

○5番（坂口親宏君）皆さん、こんにちは。坂口親宏です。お疲れのところ、申しわけありませんね。いつも皆さんお疲れのときに私が登壇をさせていただいて、本当に恐縮でございます。

議席ナンバー5、きょうが5番目の登壇ということで、いつもどなたかこのようなことをフリートークでされているんですが、私がこのようにシンクロをしたいと思います。小さな幸せを感じながら、きょうは12月議会の一般質問をさせていただきます。

今年2016年は真田丸ですよ。きのう皆さん真田丸ご覧になりましたか。おもしろかったですね。引金。番組テーマが引金ですよ。本当にすばらしい今年の一年、大河ドラマです。あと2週あります。オーラス、ラスト2です。ですから、大河ドラマは49話、50話というようなところだったんですが、このところ50話というところが定番になっていますね。ですから、最終話が12月の18日です。クドカンの脚本もおもしろかったですね。まさかあんなところから、あの庭から馬上筒が出てくるとは思いませんでした。短筒ですか。何のこっちゃというような顔をされている方、まだご覧になっていませんか。きのうはおもしろかったですよ、真田丸。

真田丸、そして脚本と申しますと、皆さん、ちょっときょうの一般質問のテーマと関係す

るんですけれども、非常にいいニュースが飛び込んでまいりました。情報を共有するという意味で、きょうの一般質問の内容にも関係します。この壇上から皆さんにお伝えをしておきます。2019年の大河ドラマはオリンピック掛けるクドカンと、宮藤官九郎というようところが、11月16日、NHKから発表されていますね。これはNHKのオフィシャルドラマホームページに掲載されています。2019年の大河ドラマはオリンピックをテーマにした、宮藤官九郎さんがオリジナル脚本で痛快アンド壮大な大河ドラマを制作するということが、NHKから公式に発表されています。

その中で、「1936年のベルリン大会では、水泳の前畑をはじめ金メダルを量産」というフレーズが書かれています。数あるアスリート、金メダリストの中でも、前畑という選手名が唯一挙げられております。2019年の大河ドラマは33年ぶりに近現代史に挑みます。これ、今から申し上げるのは、NHKドラマのホームページからの抜粋です。引用です。「関東大震災、東京大空襲を経て、復興を遂げた首都「東京」。1912年の初参加から、1964年のオリンピック開催までの激動の52年間を、歴史に翻弄されたスポーツマンたちの姿を通して描く「東京&オリンピック」の物語」と、2019年の大河ドラマが既に発表されています。

先日、東京の渋谷のNHKの放送センターに参りまして、ドラマ番組部のチーフプロデューサーにお話を伺ったんですけども、また後ほど、この話は質疑応答の中でお話をさせていただこうと思うんですけれども、3年前倒しになって、このNHKの大河ドラマの、

これは番組名ではないんですけれども、テーマが発表されるというのは異例中の異例だということです。これは何を示すかという、それだけNHKにとっても2020年の東京オリンピック、国威発揚ではありませんけれども、NHKとしてもこのオリンピックを相当意識したドラマづくり、番組づくりを仕向けているというようなことだろうと思います。

それに加えまして、もう一ついい情報があります。これもご存じだと思うんですけれども、ミスター・フレッド・イサム・ワダの話です。御坊市の名誉市民でいらっしゃいます。1964年の東京五輪、これ、招致にかかわられた方なんですね。ですから、この宮藤官九郎さんのテーマが決まった後で、御坊市としては、この和田勇さんの、ミスター・フレッド・イサム・ワダの、ぜひその大河ドラマの主人公にしてほしいという、そういったお願い、陳情活動が続けているということです。2019年のNHK大河ドラマにオリンピック・宮藤官九郎が決定したのを受けて、東京にオリンピックを呼んだ男として著名な故和田勇氏を取り上げてもらおうという動きが出ているという、紀州新聞にもこのように掲載をされています。御坊の魅力を全国に発信できる好機となるだけに、市関係者も何とか実現できればと期待を込めているという、そういった市関係者のコメントも寄せられています。

ですから、2019年の大河ドラマ、私たちがめざしているのは2019年の秋スタートの朝ドラですから、これがもし本当に決まれば、ウイン・ウインどころかダブルウインという形で、大河ドラマが和歌山県出身のミスター・フレッド・イサム・ワダ、そして、2019年の秋スタートの朝ドラが前畑秀子ということになれば、これは和歌山県にとっても願ったりかなったりなんですけど、ただ、公共性の高いNHKにとっては、これがどのように左右す

るのかというところも非常に気になります。このあたりの話も、後ほど質疑応答の中でお話をさせていただこうと思っております。

それから、悪いニュースというか、もう一つニュースがあります。これは豊橋市と福島市の話です。朝ドラ実現へ福島市など署名が開始。古関裕而さんの妻、金子さんをヒロインにして、朝ドラ誘致活動をスタートしたという、そういったニュースも飛び込んできております。ただ、これは2020年の春スタートをめざしていると書かれておりますので、現在我々が進めている前畑秀子に直近にライバルに当たるものではないんですけれども、安閑としていた、オリンピックをテーマにした朝ドラのテーマにしたものではない、今のところなかったとつい最近まで思っていたんですが、オリンピックをテーマにしたもの。

これ、どういうものかといいますと、オリンピックマーチなど市出身の作曲家、古関裕而さんの妻、金子さんをヒロインとしたNHKの朝の連続テレビ小説に向け、金子さんの出身地、愛知県豊橋市と連携した署名活動を始めたということで、東京五輪に向け、来年までに両市で、これは福島市と豊橋市、両市です。両市で20万人分の署名を目標にして取り組んでいくと。それから、JR福島駅前で行われた古関裕而さんの音楽イベントで、市と商工会議所、市のコンベンション協会を中心に設立された。もう既に設立されているんですね。古関裕而さん、金子さん夫妻のNHK連続テレビ小説実現協議会というものが設立されて、現在、署名活動を開始を宣言したという、そんな情報も流されています。

ですから、2020年の春スタートですから、ライバルじゃないといえばライバルじゃないんですけれども、こういった動きもあるということをお伝えをしておきます。

2020年の朝ドラ、そして2019年の大河ドラ

マが決定されて、それを受けて2020年は朝ドラあるいは大河がどのように今後NHKとしては判断をしていくのかというところが気になるところではあります。また後ほど、質疑応答の中でそのあたりはお話をしていこうと思います。

それでは、早速ではありますけれども、議長のお許しを得ておりますので、早速通告書の朗読をさせていただきます。

一つ目、前畑秀子さんをヒロインとする朝ドラ誘致について。

小さい項目の一つ目です。誘致活動の進捗状況と来年に向けての誘致戦略はどうか。それから、二つ目、本市プロジェクトチームの活動状況と三市、これは名古屋市と岐阜市、橋本市のことです。この連携の現況はどうなっているのか。三つ目、朝ドラ誘致に特化したフィルムコミッションを期間限定で設置してはどうかという提案。

それから、大項目の二つ目になります。橋本市地域防災訓練におけるドローンのデモフライトを検証し、災害時におけるドローンの機能評価と利活用の方法を含め、導入の是非をお尋ねいたします。

それから、大きい項目の三つ目になります。世界を舞台に活躍する女性尺八奏者の辻本好美さんに観光大使をお願いしてはどうかという、以上、3項目になります。

それでは、一つ目の項目からご答弁をお願いしたいと思います。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の質問項目1、前畑秀子さんをヒロインとする朝ドラ誘致に対する答弁を求めます。

教育部長。

〔教育部長（森中寛仁君）登壇〕

○教育部長（森中寛仁君）一点目の、誘致活動の進捗状況と来年に向けての誘致戦略についてお答えいたします。

誘致活動としましては、誘致賛同の署名活動や、NHK及び関係団体への誘致に向けた働きかけなどに努めたところ、市に寄せられた誘致賛同署名は、現在約5万2,000人を超えています。また、先月17日には「前畑がんばれ！」を朝ドラに、と題する趣意書を丸川珠代東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣や鈴木大地スポーツ庁長官などに提出し、支援をお願いしたところでした。

今後の誘致活動スケジュールとしましては、2020年の東京オリンピックを控え、NHKが2019年の朝ドラを決定するのは放映1年前の2018年と見込んでおり、2017年までに誘致活動を終える必要があると考えております。また、名古屋市、岐阜市とも連携をとり、集まった署名を持ってNHKや関係機関へ陳情活動するとともに、エピソードやロケ地情報の提供を行い、さらなる誘致活動に努めたいと考えています。

次に、二点目の、本市プロジェクトチームの活動状況と、名古屋市、岐阜市、橋本市の三市の連携の状況でございますが、4月に本市で設置した朝ドラ誘致プロジェクトチームは三市連携の会議を4回行うなどの活動を進めており、三市連携の要となっています。

名古屋市との連携につきましては、10月2日に前畑さんの母校・椋山女学園がある名古屋市千種区の千種区民まつりに本市と朝ドラ誘致実行委員会が出向き、名古屋市担当者とともにPR活動を行い、701筆の賛同署名を得ました。また、11月23日開催のスポーツ・ライフ in 瑞穂にも朝ドラ誘致実行委員会が出向き、名古屋市の2026年愛知名古屋アジア大会開催PRスタッフと一緒に前畑秀子朝ドラ誘致PR活動を行い、600筆以上の署名を得ています。

また、岐阜市とは電話やメールでの情報交

換に努めています。

次に、三点目の、朝ドラ誘致に特化したフィルムコミッションを期間限定で設置することについて、お答えします。

前畑秀子ゆかりの地の風景は、中心市街地土地区画整理事業などに伴って大きくさま変わりしています。ロケ地として活用できる場所は、紀の川と橋本小学校校舎撮影の代用としての国指定の重要文化財・高野口小学校等があります。

このことを踏まえて、朝ドラ誘致に特化したフィルムコミッションを期間限定で設けることの有効性について検討します。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

誘致委員会、そしてプロジェクトチーム、それぞれがしっかりとその立場で機能されているということで、安堵いたしました。

一つ確認をいたします。今のご答弁の中で、NHKが2019年の朝ドラを決定するのは放映1年前の2018年と見込んでおり、2017年までに誘致活動を終える必要があると今ご答弁がございましたけれども、その根拠をお尋ねいたします。

○議長（中本正人君）教育部長。

○教育部長（森中寛仁君）NHK東京並びに大阪へ陳情、並びに議員の皆さま方がいろいろ朝ドラ誘致のご協力に出向く中での情報によりますと、やはりNHKとしましては、だいたい朝ドラの発表は放映の約1年前、そして、内定がその半年前というふうにお聞きしております。

その中で、本市がめざします2019年秋の放映となりますと、2018年秋の決定、内定につきましては2018年春頃であるということから、

やはり2017年までには誘致活動は終えておくような必要があるというふうに考えております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

当初、私もその算段で、この本会議場で皆さんにそのようなことを申し上げたと思います。当初の誘致活動の私のヒアリングの中では、担当プロデューサーもそのようなタイムスケジュールをおっしゃっていました。番組が放送される1年前にマスコミプレスリリースを通じて作品が決定される。その半年前にはNHK内で作品が決定されて、半年間をかけてNHK内で稟議をされるということですね。

ですから、今の考え方で言うと、当初のNHK朝ドラの作品決定のタイムスケジュールで間違いはないんですが、ただ、教育部長、今、冒頭私、壇上でも申し上げましたように、2019年の大河ドラマが3年前に決定されるというのは異例中の異例なんですね。これは、担当チーフプロデューサーがおっしゃっていました。こういうケースははじめてだと。ですから、先ほども申し上げましたように、NHKがいかにもオリンピックを意識した制作、ドラマづくりをするかというところ、まだ番組のタイトルも決まっていない段階で、2019年の大河では近現代史34年ぶりにオリンピックを扱うというようなことをリリースすることは、いかにもオリンピックを意識したかという話だと思えるんですね。

ですから、この番組も、申し上げましたでしょう。大河ドラマ全50話なんです。12月18日が真田丸の最終話なんですけれども、2019年の、このオリンピックの大河ドラマも、12月の中旬、あるいはそういったあたりに終了します。NHKとしては2019年の12月の中旬

以降、本チャンが始まる、オリンピックが始まる2020年の8月まで、これだけ意識をした番組づくりをしているのに、オリンピック関係のドラマ制作をしないわけがないというのが、通常考える予想だと思えるんですけども、そういった考えに基づきますと、今のタイムスケジュール的には前倒しに考えないといけないというふうに思うんですけども、先日お会いしたチーフプロデューサーのお話によると、番組もいい素材があれば、そのタイミングで発表すると、これはこういう言葉でおっしゃっていました。朝ドラについても、いいタイミング、そのタイミングでその作品があれば、そのタイミングで発表するという事です。

ですから、2017年に2019年の秋スタートの朝ドラが、それは前畑になるか、あるいは先ほど申し上げましたように金子さんの物語になるか、これはわかりませんが、そういった可能性があるということですので、この考え方に基づいての誘致活動のタイムテーブルを見直すお考えはありますでしょうか。

○議長（中本正人君）教育部長。

○教育部長（森中寛仁君）その件につきましては、またできるだけ情報収集を行いながら検討してまいりたいと思います。

また、名古屋市、岐阜市とも、来年年明け早々には三市連携の会議を持ちまして、今後どのような戦略でいくかというようなところも詰めてまいりたいと考えております。

○議長（中本正人君）再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

そうですね。それともう一つ、壇上でも申し上げましたように、今までライバルはなかったんですけども、豊橋市、これはライバルと言ったら豊橋、福島に対しては失礼かも

しませんが、同じオリンピック関係の朝ドラの誘致活動、これはもうライバルですよ。自治体間の誘致合戦ですからライバルになると思うんですが、これ、やはり安閑としてはいられず、2017年はそれなりのスタンスを持って誘致活動をしていただきたいなというふうに思います。

それから、もう一つお尋ねいたします。本年は前畑、古川にとりましても、それぞれオリンピックで金メダルをとった節目の年になると思うんですが、市長がいつもおっしゃっています市民全体で盛り上げていこうという、本当に私も賛成申し上げますけれども、何か今年は市民の機運を醸成させるようなイベントは企画していらっしゃいますでしょうか。

○議長（中本正人君）教育部長。

○教育部長（森中寛仁君）12月18日、日曜日に橋本市民会館におきまして、前畑秀子金メダル80周年、古川勝60周年の記念のイベントを開催したいと思っております。

それぞれの金メダルの顕彰をするためにシンポジウムを行います。また、特別スペシャルゲストといたしまして、さきのリオのオリンピック、8月11日に同じ200m平泳ぎで金メダルを獲得いたしました岐阜市の金藤理絵さんも、今回特別に参加していただけることとなりますので、そのあたりで、また今後の朝ドラ誘致の機運を市民とともに盛り上げたいと考えてございます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

まさにこういったイベントをすることが、当初から朝ドラジャンボ宝くじと申しあげているんですけども、こういった誘致活動をすることによって、いろいろな副産物が、岐阜市あるいは名古屋市との連携もできましたし、また、無敵の潜水泳法、古川勝さんと

もに前畑もまた若い方たちに知っていただける非常に好機になるかと思えます。すばらしいイベントを企画していただきまして本当に感謝申し上げます。

それと壇上でも申し上げたんですが、教育委員会、教育部長もご存じだと思うんですが、御坊市の名誉市民の和田勇さんの話なんですけども、当然これも県を挙げて、大河ドラマの主人公ということになりましたら大変大きい観光戦略になりますから、県も挙げて応援していくと思うんですが、このあたりの情報は何かお持ちになっていますか。そして、それとリンクして、これが本市の前畑秀子の朝ドラ誘致にかかわる何か影響のようなものはお考えになっていますか。

○議長（中本正人君）教育部長。

○教育部長（森中寛仁君）先日から、担当者の方から和田勇さんのことは若干お聞きいたしましたして、1964年の東京オリンピックの誘致に大変ご尽力をされた方であるというふうなところはお聞きしております。

また、御坊市といたしましても橋本市と同様に、今後いろんな活動を一緒に願いたいというふうなところも聞いておりますので、関係者と連携をとりながら、本市としてもメリットになるようなところは一緒に活動をしてまいりたいと考えております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。

まさに2019年大河、そして朝ドラと、ウイン・ウインではなくてダブルウインになるように、和歌山県のそれは、もし決まれば本当に観光戦略、誘致戦略の一つになるかと思えますので、県とぜひタイアップして頑張っていたきたいと思えます。

それから、最後にお尋ねいたします。フィルムコミッションの件です。これもチーフブ

ロデューサーとお話をしたときに出てきた話題なんですが、全く同じ案件で同じような素材があった場合、受ける自治体でフィルムコミッション、いわゆる受け入れ体制が全くできていない自治体と、そして、フィルムコミッションがしっかりできている自治体、どちらを選択しますかという、その話題。間髪を入れず、当然フィルムコミッションという、自治体としては受け入れ体制のあるところを選びますと。これは当然の話です。ドラマ、番組制作としてはいろいろな申請であったりとか、地元で協力体制があるところと全くないところであれば利便性が全く違うので、それは当然の話だと思うんですけども、このフィルムコミッションの話ですけども、先ほども申し上げましたように、2017年はいつ2019年の朝ドラが決定されるかもわからないという、非常に危機感を持って朝ドラ誘致活動に取り組まなければいけない年だと思うんですけども、本市としてはどのようなスタンスで、こういったフィルムコミッションも含めて、どのようなスタンスで取り組みをされるのか、これは市長にお話を伺います。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）坂口議員の質問にお答えをします。

4月から朝ドラ誘致室を設置をいたします。その中で実行委員会も、もう少し大きな規模にできたら、岐阜市のように市全体で取り組むような形にしていければなというふうに現在考えています。

実行委員会の皆様のご意見を賜りながら進めていきたいと思えますし、坂口議員、実行委員会やめられていますので、その中で先日も、鈴木大地長官のときも岐阜市と一緒に陳情されるということで、少しちょっと単独行動が多過ぎるのかなというふうに思えますし、

できましたら実行委員会のほうに戻っていた
だいて、ばらばらの動きより統一した動きを
したほうが、橋本市にとってプラスになっ
てくるのではないかというふうに思っています。

フィルムコミッションについては、一度実
行委員会の中で考えていただいた中で進めて
いけばいいのかなというふうに思っておりま
すし、あくまでうちは朝ドラ誘致について積
極的に活動していくというふうに考えており
ますので、あまり大河については考える必要
はないのかなと。ただ、ここでやると決めた
以上、徹底的に朝ドラ誘致に向けた取り組み
をしていくと。

やはり、岐阜市、名古屋市との連携も大変
重要になってきますので、より一層の取り組
みをしていきたいと。何でしたら、また岐阜
市、名古屋市に市長と直接お会いしてもいい
のかなというふうに思っていますので、でき
るだけ、そこまでおっしゃる以上、実行委員
会に戻られて積極的な活動をしていただいた
ほうが、橋本市が一丸となって取り組んでい
るということがわかるのではないかと思いま
すので、そこら辺を期待をしています。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）2017年、ある日突然N
HKから市長室に吉報の電話が届くことを期
待しまして、1項目めの質問を終わらせてい
ただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、災
害時におけるドローンの機能評価と導入の是
非に対する答弁を求めます。

危機管理監。

〔危機管理監（坂本安弘君）登壇〕

○危機管理監（坂本安弘君）橋本市地域防災
訓練におけるドローン活用の検証結果と導入
の是非についてお答えします。

ご質問にもあるように、11月13日に開催し
た橋本市地域防災訓練において和歌山県にご

協力をいただき、県所有のドローンを活用し
た訓練を実施しました。また、地域防災訓練
の前に開催された和歌山県職員を対象とした
ドローンの操作研修も見学させていただきました。

その中で、ドローンは小型化、軽量化が進
み持ち運びがしやすいこと、飛行音が静か
であること、操作性にすぐれ近距離での撮影が
可能であるということがわかりました。一方、
雨や風に弱いこと、夜間には使用できないこ
と、安全に操作するには技術と経験が必要で
あることなど、弱点についても改めて認識す
ることができました。

今回の検証を踏まえ、ドローンは弱点はあ
るものの災害時において、迅速な被災状況の
把握及び職員が立ち入ることの困難な危険区
域での情報収集、孤立した地域への緊急物資
の搬送、遭難者の捜索等に活用でき、有用性
は高いと考えていますので、関係企業とド
ローン及び操縦者の派遣に関する災害協定につ
いて協議を行っているところです。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問
ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございます。
た。

関係企業と災害協定を結んでドローンのと
いうお話ですけれども、オペレーターの派遣、
それと映像情報の処理、そういった費用を含
めて、だいたいどのくらいの費用をお考えに
なっていらっしゃるのでしょうか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）前回9月議会に
も答弁をさせていただいておりますけれども、
1日20万円から25万円程度を想定しておりま
す。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）9月議会でもそのよう

にご答弁いただいたんですが、これはオペレーターの派遣と映像処理の費用なんでしょうか。肝心なのは、ドローンを使って得た情報をどのように分析をするか。橋本市の地域防災訓練でも伊都振興局の皆さんにお話を伺いましたが、その映像から得られる情報をプログラミングして、例えば、流れ出た土砂の立米であったりとか、あるいは修復部分の調査であったりとか、その映像を使ったプログラムが非常に大切だと、このようにおっしゃっていたんですけれども、ドローンを飛ばすこと自体が目的ではなくて、そのドローンから得られた情報をどのように処理をするのかといったところも含めて、今おっしゃったような費用、1日20万円から25万円程度というふうなお話になるのか。

あるいは、それとあわせてお答えいただきたいのが、どのようにその映像を利用して行くのかというような、具体的なお考えがあったらお聞かせください。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）ただ今答弁をさせていただいた20万円から25万円というのは、飛ばしていただいて、映像を撮影を含んだ費用ということですが、それを、その映像をどのようにというところまでは、現在まだ協議ができておりません。いろんな業者と今後協議を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それと、弱点として、安全に操作する技術、それと経験が必要という認識でいらっしゃるんですが、先日の地域防災総合訓練では伊都振興局の方がオペレーターをされていました。ヒアリングしますと、西牟婁振興局の県の職員から直伝で操作技術を習得をした、研修をしたというお話なんですけれども、前回の9月議会では、何かこう、

民間に派遣して研修費用が数十万円というふうなご報告、ご答弁をいただいたように思うんですけれども、仮に本市の職員が、危機管理室の職員が、県の職員からそういったプロポの操作技術を習得するという事は可能なんでしょうか。備えを常にではありませんけれども、実際にオペレーターが派遣がなくても橋本市の職員が飛ばすというような非常事態が仮に想定された場合、オペレーターがいないということになってもいけませんので、そのあたりのドローンの操作技術の習熟というのはお考えになっていますでしょうか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）県職員の研修といますか、防災訓練に参加していただくについて、県の職員が3回ほど西牟婁振興局の職員から研修を受けて、実際に操作訓練を行った。そこを私たち市の職員も見学をさせていただきましたけれども、今回、3回という限られた回数、それから、西牟婁振興局を出て、よその振興局の職員が操作するというものはじめてだったというようなことも含めまして、橋本市の職員が今回の研修に、実際の操作をさせていただくということはできませんでした。

もし、県と全く同じ種類のドローンを市が購入した場合には、当然、西牟婁振興局の職員も含めて操作技術を教えていただくということは可能であろうと思いますが、現在、以前からご答弁させていただいておるように、市のほうで直接購入するという考えは持っておりませんので、操作技術を重ねるということは考えておりません。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それでは、県と協議、調整して、伊都振興局にドローンを1機配備してもらうことは可能でしょうか。西牟婁振興局にも1機配備してあるんですが、これは

橋本市選出の県議会議員とも協議をして、調整をして、県のほうにお願いをするという、そういった動きにはならないのでしょうか。

○議長（中本正人君）危機管理監。

○危機管理監（坂本安弘君）お答えをいたします。

今回、県のほうでドローンの導入に関するアンケートというのがございまして、その中で、現在、県で災害時の被害状況や高所等の空撮ができるドローン操作技術者の養成をし、空撮のお手伝いができないか考えているところですが、そのような施策があれば活用したいと思いませんかというような質問がございました。私のほうは、そういうことがあれば、ぜひ活用をさせていただきたいというふうなお答えをさせていただきました。

今後、伊都振興局にもそういったことでドローンが配備されるようなことがあった場合には、ぜひ活用をさせていただきよう和歌山県をお願いをしていきたいなというふうには思っております。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

最後の質問になります。ドローンというのは本当に現物を見ないとわからないし、見たとてどのように使うのかわからなければ意味がないもんですから、本当にパソコンと同じで日進月歩の技術なんですけれども、危機管理監もいろいろ研究をされていらっしゃると思うんですけれども、災害時におけるドローンの利活用あるいは機能、最先端技術の情報の収集という部分については、ぜひこれからも積極的にやっていただきたいと、こういうお願いをして、二つの目の質問を終わらせていただきます。

○議長（中本正人君）次に、質問項目3、世界を舞台に活躍する本市出身の女性尺八奏

者・辻本好美さんを観光大使に、に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）世界を舞台に活躍する女性尺八奏者の辻本好美さんに観光大使をお願いしてはどうかというご質問について、お答えします。

観光大使は、観光はもとより、地域振興のための象徴的存在として広報活動に携わる人であり、ご当地にゆかりのある著名な方を任命することで、地域のPR活動を行っている自治体が増えています。観光大使を任命して地域のプロモーション活動を行うことにより、あまり認知されていない地元の観光スポットや特産品などの魅力をより多くの人に知ってもらい、経済効果につなげることが期待できます。

辻本好美さんについては、難関といわれる東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八専攻を卒業後、アメリカ、イタリア、フランス、ブラジルをはじめ世界中から招致され、海外での公演歴は既に25回を超える実力派であります。また、邦楽に限らず、ジャズやポップスなどいろいろなジャンルに挑戦する意外性や演奏力は、クールビューティーな尺八奏者として世界中で話題となっています。日本国内でも、テレビ番組等に数多く出演し、マイケル・ジャクソンの曲を和楽でカバー演奏し話題となっています。

辻本好美さんにおかれては、実力はもちろんのこと、世界に向けたご活躍が大いに期待されることから、市民の誇りであり、本市としても応援させていただきたいと思っております。

議員おただしの観光大使の任命に関しては、観光による経済振興を積極的に行っていく上で非常に有効であると考えますので、今後、大使設置の是非も含めて検討してまいりたい

と考えます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君、再質問ありますか。

5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）辻本好美さんの丁寧なご紹介をいただきましてありがとうございます。ちなみに一つ、部長が抜けていたところといいますと、平成26年度の橋本市文化表彰で辻本好美さんが文化奨励賞をこのように受賞をされております。橋本市としても大変文化的にはご貢献をいただいている方です。いっしょにしまして、橋本市内でもいろいろな演奏活動をされています。ちなみに一番近いところでは、1月の8日、隅田コミュニティセンターでライブコンサートをされるというようなこともお話を伺っております。ぜひ今、部長がおっしゃったように、我々市民一人ひとりが辻本好美さんを応援していきたいなど、そんな思うようなアーティストでございます。ちなみに9月28日にCDデビューをされて、本格的な演奏活動を海外でされていっしょにいます。

ここで一つお話を伺います。この観光大使を置くことのメリットについては、部長はどのようにお考えになっていっしょにいますでしょうか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）観光大使そのものについて、基本的には無報酬で、日々の芸能文化活動などの合間に地元の情報をアピールしたり、地元の観光イベントに協力いただけるのであれば、ふるさとの魅力を発信していただく存在として非常に効果大きいと思います。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）それでは、実際に観光大使を置くようなことになった場合、事務レベルではどのような環境整備が必要になって

くるんでしょうか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）仮に観光大使を設置するとなれば、その観光大使になっていただく方に橋本市を広く世間にPRしていただくために、PRポイントをしっかり押さえて、どういったものを見て知っていただくのか、それは観光施設か、特産物か、地場産業か、体験型の今話題になっている観光か、ある程度明確にして、わかりやすく紹介できるようにしておく環境整備が必要であると思います。

また、観光大使に何をやっていただくのか、何を願うのか、そういった活動内容等、任期の期間、さらには基本的に無報酬であってほしいとは思いますが、イベントの参加のための交通費などの実費部分、そういった負担部分などの条件をしっかりと明確化しておくために、観光大使設置の規約を要項等で整備しておく必要があるかと思います。

これらの事務的作業に合わせて、ご本人や事務所の方々との調整が必要になってこようかと思えます。

○議長（中本正人君）5番 坂口君。

○5番（坂口親宏君）ありがとうございました。

質問席にタブレットを持ち込むのははじめてです。週刊誌を議場に持ち込むのは少しはばかられましたので、電子書籍でダウンロードして持ってきました。サンデー毎日、11月27日号です。辻本好美さんの記事が紹介されています。ぜひまた書店等で、もしお求めになれることがありましたらお求めいただきたいと思えます。サンデー毎日11月27日号です。

そのインタビュー記事の中で、このように紹介されています。辻本好美さんのコメントです。「今の一番大きな夢は、東京オリンピックの開会式で演奏をすることです。」このよう

なコメントが紹介されております。ぜひ橋本市のご出身の方ですから、お力添えをいただけるように、何とか観光大使にご就任をいただけるような、そういった環境整備もしっかりとしながら、時間をかけてでもお迎えできるような交渉をしていただきたいと、そういうお願いをして、以上で一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（中本正人君）5番 坂口君の一般質問は終わりました。

この際、4時15分まで休憩いたします。

（午後4時3分 休憩）